

令和5年度 東京都立石神井高等学校 学校経営報告

校長 藤 野 泰 郎

1 本年度の総括

本校は、「チーム石神井で文武二道の両立を！」のスローガンのもと、学力の確実な定着による進学実績向上、部活動の一層の充実、そしてその基盤となる基本的生活習慣や規範意識の醸成を目指し取り組んできた。学力及び人間力をどこまで高めることができたのか、その成果と課題をここに報告する。

2 令和5年度における教育活動への取組と自己評価**(1) 学習指導****① 授業規律の遵守と主体的・対話的で深い学びの実践**

授業規律を徹底し、チャイムと同時に授業を開始し終了する等50分の授業時間を大切に学習環境を構築することにより、授業に取り組む姿勢を向上させた。また、授業観察の観点に、本時のねらいの明示と主体的・対話的で深い学びの実践を導入したことにより、ペアワークやグループワークなど協働的な活動やスマスク端末の活用等主体的・対話的で深い学びとなるよう探究的な学習への取り組みが多く授業で見られるようになった。

② 基礎的・基本的な学力の定着と応用・発展的な学力の向上を目指した指導

I C T機器を活用した授業は定着し、生徒の学習に対する関心・意欲を高めると共に、Teams やForms の活用による週末課題の提示や授業ごとの振り返りは基礎的・基本的な学力の定着と共に応用・発展的な学力を向上させた。また、様々な学習コンテンツやデジタル教材を活用しながら全校体制で実施したオンライン授業は、災害・感染症等で登校できない生徒に学習を保証することに繋がる成果である。今年度より始めたオンライン英会話は学びに向かう力を向上させ、1年生で実用英語検定準1級合格者を2名出すことができた。

夏季休業中の講習期間は、部活動を制限するなど生徒の学習機会の保証を行い全校体制で行っている。その一方で、受講生徒数が減少していることについては、開講講座の内容を含め、生徒の実態に即したものに改善していく必要がある。また、自主学習時間は今年度も課題となっている。朝早くから登校し、夕方遅くまで自習室で勉強している生徒も増えたが、自宅学習の時間が1時間未満の生徒も多く、例年目標としている学年数プラス1時間以上の学習時間という指標から見ると、いまだに達成できていない。次年度も、引き続きスキマ時間の活用を含め、ソフト面でもハード面でも、自学自習環境の構築が課題である。

(2) 進路指導**① 確かな進路選択に向け早い時期からの生徒の意識向上に努める**

1年次より計画的に行っている大学と連携した進路ガイダンスは、生徒の進学意識の向上と共に学習に取り組む態度を向上させた。それに伴い保護者の意識向上のため、進路指導部主催の保護者対象進路講演会を各学年学期に1回以上実施した。特に1・2年生については、大学入試情報等を含めた情報を保護者にも提供することにより、早い段階から進学に向けた意識を向上させることにつながった。また、保護者向けマネー講座を充実させ、一般受験を志望する生徒・保護者にとって、受験にかかる費用についても啓蒙を図り、保護者からは高い評価を得た。生徒に対する進路指導は、「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を通し、3年間を見据えて各学年段階に応じた大学等と連携した進路ガイダンスや授業体験を行い、高い進路目標を設定することができた。また、定期的に発行した「進路ニュース」は、生徒の希望進路実現に向けての意欲を高い次元で維持させた。一方教員も、模試分析会を丁寧に行い、明確になった各教科の強みと弱みを基にした授業改善を行い、生徒の希望進路実現に向けて取り組んでいる。加えて、他校の優良実践の導入や新しい取組を始める等教員の意識も変化してきている。

② ねばり強く取り組む意欲を育て、生徒の希望する進路実現に努める

模擬試験の結果分析などを進路指導部・学年の連携で行い、分析結果を個人面談や三者面談、学年集会で生徒へフィードバックし、個々の進路指導に役立たせた。令和5年度の共通テスト出願者数は堅調である。国公立大学合格者数6名、早慶上理決定者数7名、GMARCH決定者数102名と、高い次元で生徒の希望する進路を実現することができた。

(3) 生活指導**① 生徒の基本的な生活習慣や規範意識の育成と思いやりの精神の醸成**

生徒の生活指導については、外部、地域から高い評価を得ている。生活指導をしっかりと行っている学校を進学先として考えている中学生が本校を希望し、その希望者数は高い水準で安定しており、生活指導の充実が学力の向上及び進学実績の向上につながっている。一方で歩きスマホや制服の正しい着装、遅刻に関して指導する回数が増えていることは課題である。校内外の美化や公共物を大切にする意識は例年と変わらず一定のレベルを保っている。運動部や文化部がそれぞれに地域行事等に参加する活動も引き続き実施しており、ボ

ランディアマインドや思いやりの精神の醸成にもつながっている。特に生徒の行う挨拶は外部からの評価が高く、引き続き挨拶の励行を実施したい。

② 教職員あげて一層の生徒理解に努めるとともに、好ましい人間関係の構築を支援

生活指導部が教育相談を所轄し、特別支援教育コーディネーターを生活指導部から選任し、フットワークを軽くすることで生活指導と教育相談とが緊密に関わることができている。スクールカウンセラーによる新入生の全員面接を含め、特別支援校内委員会を研修会含め年間6回開催し、教員との相互連携や生徒情報の共有により生徒の心理的な課題を早期に把握し、課題を抱える生徒への対応を適切・迅速に行うことができている。通級による指導も充実し、今年度は2名の生徒が課題解決に向けて前向きに取り組んだ。また、特別支援教育等の研修への派遣を継続的に行うことで、教育相談に関する教員の意識を向上させることができている。いじめに関して、教職員一人一人がアンテナを高くし、些細な変化も見逃さずに学年会等で共有し、早期発見・早期対応を行うと共に、いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し今年度も課題はなかった。学校サポート会議も、地域関係者の協力を得て、有効に機能している。

(4) 特別活動

① 学校行事、生徒会活動・委員会活動、部活動等の一層充実・発展を図り、生徒一人一人の資質の向上を図る。

体育祭・文化祭等の学校行事はコロナ前の制限のない形で実施できた。制限のない体育祭・文化祭を経験したことのない生徒であったが、体育祭実行委員会や文化祭実行員等生徒の主体的な取り組みにより、石神井高校の伝統を継承すると共に、安心・安全を確保しての学校行事を実施することができた。短い準備期間の活用方法に課題が残ったが、生徒一人一人が「チーム石神井」の一員としての帰属意識を高め、学校を愛する気持ちと仲間を大切にする意識を高めることができた。良き伝統を継承し、一人一人の生徒が自己肯定感・自己有用感を持つことのできる学校行事として引き継いでいく。また、生徒だけでなく在校生の保護者や近隣の方々にも本校の取組を紹介できたことは、大きな成果であった。

美化委員会、保健委員会では、新型コロナウイルス感染症がまだ2類の間は、継続してゴミの分別、手指消毒、換気の徹底に合わせ、校内美化、トイレの衛生点検などを生徒主体に計画的に進めることができた。5類への移行後も基本的な感染症対策と校内美化に努め、「グッドマナー石神井」のスローガンの下、清掃活動を行った。学校見学会や学校説明会等で来校された方から校舎が常にきれいであると高評価を得ている。

図書委員会では、読書活動の推進や図書室前にソファとブックスタンドを設置し、本に親しみやすい場所を提供する“ブックカフェ”を継続実施した。図書貸し出し数は低調であるため、更なる読書活動の推進が課題である。

部活動においても、ガイドラインに沿った活動を行い、新型コロナウイルスに限らず感染症対策と部活動の両立を図り、都大会ベスト16以上の部活動が3部活動の外、美術部等の文化部においても各種コンクール等で優秀な成績を収めた。

年間3回の避難訓練と防災訓練は生徒の災害時の行動指針となっており、緊急地震速報が流れた震度4の地震の際には、どの生徒も机等の下に入り自助のための行動をとることができた。

② 海外高校生等との交流の実施、異文化体験・理解の促進によるグローバル感覚の醸成

海外学校間交流推進校の指定を受け、台湾・韓国・アメリカ合衆国の高校生とのオンライン及び手紙による交流を行った。未知の体験を積むことにより、更なる知的好奇心を刺激し、様々なことにチャレンジする生徒が増えた。3月末には台湾国立屏東高級中学と姉妹校提携の締結し、令和6年4月には短期の留学生受入れ、秋には短期留学を行う予定である。また、多文化共生派遣教育プログラムでヨルダンを訪問し、現地高校生や大学、企業等と交流をする予定であったが、中東情勢悪化の影響で本プログラムは中止となった。東京体験スクールにおけるホストファミリーに応募したがマッチングせず、こちらも今年度は実現しなかった。

(5) 健康づくり・体力づくり

① 学校生活を支える生徒の心身の健康づくりに対する取り組み

外部講師を招いて薬物乱用防止・性暴力及び性感染症問題・性の多様性・癌教育をテーマにした講演会を開催し、生徒の健全育成を図った。また、スクールカウンセラーによる教育相談に係る研修や、養護教諭による食物アレルギー対応に関する校内研修、感染症予防に関する研修や性的虐待をテーマにした研修をととして、生徒・教員の意識向上を図るとともに、定期的に保健だよりを発行して生徒の心身の健康に対する意識を向上させた。産婦人科の学校医も継続して配置され、生徒の健康増進を一層推進すると共に、コンディショニングレポートやclassi 東京都版の活用により家庭と学校とで生徒の健康状態を共有し、見守り体制も大きく向上した。体育の授業で毎時行われる体づくり運動は生徒の体力向上に大きな成果をあげ、数種目で全国平均を上回った。部活動指導においては19名の部活動指導員を活用し、科学的なトレーニングと健康管理を取り入れる等、個に応じた指導を実践し、生徒の体力づくりと健康づくりを増進した。

(6) 募集・広報活動

① 募集対策

夏季休業日中の5回の学校見学会、10月からの3回の学校説明会では、生徒の生の声や様子を見てもらうための工夫を行い、参加者からは大きな評価をいただくと共に、今年度も高い入学選抜の倍率となり、本校受検を希望する中学生・保護者の期待には応えること形で実施できた。また、学習塾や予備校主催の進学講演

会や相談会、中学校での進路説明会に可能な限り参加し、本校の魅力を広く伝えることができた。

② 広報活動

本校の特色を生かしたホームページとすべく、他校とは一線を画したつくりとしている。行事や特色ある教育活動を行ったあとの更新回数を増加させ、生徒・保護者はもとより、広く都民に本校の教育活動を周知した。学校案内は前年度から取り組み始め、5月連休明けには完成し、ポスターと合わせ中学校や学習塾等に配布した。今後も早期完成を目指して、より早く情報発信ができるよう、広報活動全般に取り組むことが課題である。

(7) 学校経営・組織体制

① 学校や生徒に関わる課題に迅速、かつ効果的に対応できる組織体制を構築する

企画調整会議を学校の基軸とした学校運営を行い、分掌主任、学年主任の経営参画意識を高め、高い水準で職責を全うし、組織的に課題発見及び解決を図る取組を実践した。各分掌と学年の分掌担当が連携を密にし、進路指導においては、効果的な模試分析会を実施するなど、大きな成果があった。また C4th に関する連携も密にとることができ、調査書発行や成績処理において、大きなミスをすることなく組織的な対応をすることができた。経営企画室とも予算の編成・執行、業者選定、入学者選抜における資格審査・人員報告、授業料及び学校長集金関係等において緊密な連携を図り、遺漏なく事務処理を行うことができた。

② 教職員の行動改革と資質・能力の向上を図る

多くの授業で ICT 機器を効果的に活用した教材開発と授業改善が進み、教育のデジタル化に向かって進んでいるが、スマスク端末の効果的な利活用方法について、更なる一步を踏み出すことが課題である。情報セキュリティ（個人情報管理）や服務等に関する校内研修を計画的に実施し、教職員の服務遵守に関する意識を定期的に高める取組を行い、教育公務員として資質能力を向上させ、服務事故を起こすことなく業務を遂行できた。教科主任や主幹教諭・主任教諭が中心となり、若手教員に対する OJT を実施し、授業及び分掌業務においてより実践的な力を養った。また、若手研修・中堅研修を活用した授業研究や授業力向上に関する校内研修、年3回以上の相互授業見学には多くの教員が参加し、若手・中堅教員の授業力向上にとどまらず、参加したベテラン教員も新たな取組を始める等、石神井高校全体の授業力向上を図ることができた。

ライフ・ワーク・バランスに関しては、職員会議及び企画調整会議のペーパーレス化により会議時間を短縮させた。また 19 名の部活動指導員の任用により、部活動の盛んな本校において部活動顧問の負担を軽減させることができた。それと同時に、休暇を取りやすい環境を構築し、男性教員が育児休業や出産支援休暇、育児参加休暇を取得するなど、ライフ・ワーク・バランスを推進した。更にライフ・ワーク・バランスを重視した働き方改革を推進し、時間外労働時間の削減に努める。

3 重点目標と方策および数値：〔 〕内は目標値

		今年度結果	目標値
(1)	授業規律の遵守を徹底するとともに生徒の興味・関心を喚起し、意欲的・主体的に学習活動に取り組めるよう授業内容、指導方法、評価の在り方を工夫・改善する		
	チャイムによる授業開始と終了、挨拶の励行など授業規律の徹底	100%	[100%]
	生徒による授業評価、学校評価における授業に対する満足度	80%	[90%以上]
	夏期の補習・講習の開講講座数（前・後期1週間ずつ）・ 夏期の補習・講習の参加生徒数	59講座・ 延べ1,332名	[60講座・延べ 3,200名以上]
	自主学习時間1時間未満の生徒の割合	9.9%	[5%以下]
(2)	自己の適性を見出させて確かな進路を選択させ、現役での希望進路の実現を支援する		
	現役生で卒業時の進路未決定者（「進学準備」以外）率	0%	[3%以下]
	現役での4年制大学・短大進学率	83.3%	[80%以上]
	現役でのGMARCH合格者数	102名	[120名以上]
	国公立大学合格者数	6名	[10名以上]
	早慶上理合格者数	7名	[20名以上]
	難関国公立、医学部合格者数	0名	[1名以上]
	共通テスト結果（全国平均突破科目数）	9科目	全科目突破
(3)	全教職員が一体となった組織的な取組により、基本的生活習慣の定着と規範意識の徹底を図る。		
	特別指導件数	5	[3件以下]
	極端な染髪生徒の割合	0%	[1%以下]
	生徒に関する近隣からの苦情電話件数	4	[3件以下]
(4)	部活動の一層の充実と委員会活動の活性化を図る		
	部活動加入率	96.2%	[95%以上]
	都大会入賞、ベスト16以上の部数	3部	[5部以上]
(5)	健康づくり、環境衛生に関する講演会を開催し、生徒の保健、環境に対する意識向上を図る		
	保健および美化に関わる講演会の開催	3回	[4回]
	生徒会、美化委員会による「グッドマナー石神井」の取り組み	通年実施	通年実施
(6)	学校PR活動の一層の充実を図り、本校により適する生徒の入学を目指す。		
	学校見学会・説明会の参加人数（保護者と中学生）	4,540名	[5,500人以上]
	入学者選抜（一次）の倍率	1.5倍	[2倍以上]
(7)	研究授業や校内研修を実施し、あわせて相互の授業見学を推進することにより教員の授業力向上を図る。		
	全都に公開する研究授業・研究協議の実施回数	15回	(20回以上)
	3回以上授業見学した教員の割合	91%	[100%]
(8)	授業における図書館の活用などを通して読書活動を推進する		
	生徒への図書貸出数の増大	2,952冊	[4,000冊以上]
(9)	教職員の働き方を改革する。		
	年間、勤務時間外労働360時間を超える教職員	24名	5人以下

4 令和6度に向けた成果と課題

「チーム石神井で文武二道の両立を」をスローガンに、様々な教育活動に取り組み、石神井高校の教育活動が十分に浸透してきている。入学者選抜の倍率も高倍率を維持しており、入学者の成績も向上している。それに伴い、進学実績も年々向上し、生徒の意識も大きく変化してきている。教職員の組織的な対応や生徒会や部活動を中心とした生徒の自主的な活動、体育祭や文化祭といった学校行事を生徒主体で開催したことは、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、他者と協働し主体的に学ぶ力を大きく向上させた。さらに、スマスク端末を活用し、ICT機器やオンライン授業、TeamsやFormsを活用した教育活動を推進することで、生徒一人一人に応じた個別最適な学びを充実させた。国際交流に関する取組の充実、英語の学力を飛躍的に向上させると共に、多文化共生社会創造への意欲、他者理解や思いやりの気持ち、新しい取組に挑戦する精神を醸成し、学びに向かう力を向上させた。

入学者の学力が向上し、本校に対する都民や受検生の期待は年々大きくなっており、その期待に応えることは本校の使命である。学習活動の充実はもちろん、本校最大の特徴である部活動や特別活動の充実も一層図る必要がある。新学習指導要領の理念を具現化すべく、未知の課題に対して教職員の総力を結集して、解決策を模索しながら教育活動を展開し、高度に文武二道を実践していく。